

計画見直し・策定に向けたヒアリング(介護サービスに係る外部団体) について

1 実施概要

令和 5 年 6 月 1 日	入所系事業所	8 事業所
令和 5 年 7 月 10 日	石狩市介護支援専門員連絡会	
令和 5 年 7 月 12 日	石狩市グループホーム連絡会	
	手をつなぐ訪問看護 E T I	

2 主な意見等

(地域包括支援センターについて)

- ・市民の認知度は把握していないが、地域包括支援センターとは連携も出来ている。
- ・地域包括支援センター以外に医療機関等からの相談も多い。

(認知症について)

- ・認知症は恥ずかしいことと認識している方がまだ多いが、誰でもなり得る「病気」であることを理解してほしい。
- ・児童生徒に「認知症」について知ってもらいたい。認知症キャラバン活動を行いたい。
- ・認知症の方は自覚がないことからサービス利用を拒否しがちだが、医療機関から身なりの変化があった患者さんを知らせてくれることもある。

(介護に関わる施設やサービスについて)

- ・認知症の方は家に閉じ込めてしまうとさらに認知レベルも低下してしまう。介護する側も介護される側にも心身の負荷がかかるので、サービスを気軽に使えるような環境になると良い。
- ・訪問看護の使い方が分からない方が多い。
- ・同居する家族が急に体調を崩して介護ができなくなった時に利用できる一時預かり所的なところがあれば便利。

(在宅生活を支えるサービスについて)

- ・配食サービス(食の自立支援)は、近隣市と比べると選択肢が少ない。土日や昼に使いたいが使えない。これらの選択肢が多ければ、例えば、配食でカバーして、ヘルパーがいなくなる利用者もいる。
- ・休日や夜に自宅で転倒した方がどこに連絡をしたらよいか分からず、結局、救急車を呼ぶケースが増えている。緊急通報的な機能を充実させるべき。
- ・土日や夜にサービスを利用したいが利用できない。時間外にサービスを提供している市内の事業所が少ない。

- ・介護予防のための地域のサロンなどの資源も充実して欲しい。

(介護人材について)

- ・課題はやはり、人手、人材不足につきると感じている。ハローワーク、求人情報検索サイトに登録するもほとんど応募がない。人材派遣バンクも利用するが費用負担が大きい。
- ・勤務条件は大切。福利厚生の実施や休暇の取りやすい環境を作るとして、離職者が減る。
- ・きつい職場を辞めて職を転々としている人も多い。やはり、そういった方は質も悪く、サービス低下に繋がる恐れがある。
- ・石狩市で働きたい(地域に貢献したい)と思わせる施策はないのか?
- ・報酬額が低い。一時的な補助は意味がない。
- ・外国人(特定技能生)を雇用しているが、日本語が不慣れで日常生活においても支援を必要とするため、時間が取られる。出来れば使いたくない。
- ・介護士、看護師、調理師等々施設に勤務するすべての職員が高齢化している。
- ・求人情報が見つからない。市内の介護の求人情報を一覧表とかにして見やすくできないか?
- ・介護の専門学校生に対しての奨学金又は貸付金制度がある自治体もある。条件(市内の介護職場に勤務する)を付けると有効かもしれない。
- ・石狩市内の高校において職業説明会を行っているが、実際、卒業後の進路が気になる。
- ・認知症の対応に苦慮している。事業所単体では難しいことがあるが他事業所と連携することできめ細かいサービスを行うこともできるのではないか
- ・地域の学生や子どもに介護職への理解や興味関心をもってもらいたい。
- ・「潜在介護人材」を再び、介護の現場へ呼び戻すため、介護実技等に関する講習を行うことで現場に復帰しやすくなるのではないか。

(その他)

- ・介護認定の再判定の際は、現在、利用しているサービスを踏まえたうえで判定してほしい。本来の状態とサービスを利用している状態だと認定区分に相違がある。
- ・医療が参画しなければ介護は成り立たない。救急病院が少なすぎる。
- ・ボランティア団体を法人化することで、補助金等財源の確保ができ、人材確保や情報の収集・発信もまとめてできる。
だが、兼業を認めていない事業所もあるので難しい面もある。
- ・社会福祉協議会を活用し、ボランティアや横のつながりといった人たちが過疎地域で活動することはできないか?
- ・近隣市でやっているような、事業所に対する集団指導を行って欲しい。
書類の作成方法等担当者によって指示が変わることがある。QA集とかがあると良い。